

「みなかみハピネス・光Wi-Fiタウン 観光活性化計画」の展開

—BtoXtoY (NTT東日本→自治体→事業者)
によるWi-Fiスポットの拡大—



近年、スマートフォンなどのWi-Fi端末の急速な普及に対応し、光の拡販・リテンションに向けて、NTT東日本では自治体や商店街をターゲットとしたBtoXtoY施策による「街ごとWi-Fi」の取り組みを推進しています。本稿では、温泉街などの観光地を舞台に自治体と連携し、短期間で約70の店舗・施設に「光ステーション」の導入に成功した群馬支店の「みなかみハピネス・光Wi-Fiタウン観光活性化計画」の取り組みについて紹介します。

群馬県利根郡みなかみ町

群馬県利根郡みなかみ町は、群馬県最北に位置し、谷川岳に代表される風光明媚(び)な山々や、「関東の水瓶」と称される利根川の源流を有し、水上温泉郷をはじめ、猿ヶ京温泉郷などの温泉にも恵まれ、その地形を生かしたパラグライダーやラフティング、スキーなど、四季を通じてアウトドアスポーツが楽しめる、自然豊かな観光地です。

「みなかみハピネス・ 光Wi-Fiタウン観光活性化計画」

「みなかみハピネス・光Wi-Fiタウン観光活性化計画」(以下、「光Wi-Fiタウン

計画」)は、NTT東日本のWi-Fiサービスである、「光ステーション」の「フレッツ・ポータル」機能を活用し、スマートフォンなどのWi-Fi端末を保有する観光客に対して、観光案内、アウトドアや温泉施設などの割引など「オリジナル情報」をリアルタイムに配信することにより、店舗や施設へ誘客し、みなかみ町の周遊を促す観光活性化の仕組み作りです(図表1)。

この取り組みは、同町が企業との協働を多分野において推進する『みなかみハピネス計画』のプロジェクトの1つとして展開されることになりました。

「光Wi-Fiタウン計画」では、みなかみ町観光協会が、約250の協会加盟の事業者呼びかけを行い、群馬支店との共同説明会などを開催した結果、約70の店舗・施設が参加を了承、「光ステー

ション」の設置をしていただくことになりました。

参加店が道の駅などに配信するオリジナル情報は、単純なディスカウント情報の配信だけではなく、これまでにないビジネスチャンスを拡大するためのねらいがありました。例えば、温泉旅館の「当日キャンセルの空室情報」(p.7 写真1左)や、果樹園の「味には問題ない格安の傷ありリング情報」などを配信し、事業者も観光客もハッピーになるスキームを構築しました。

ニーズ発生 ~もっと多くのお客さまに 訴求したい~

こんなに楽しく有益な情報ならば、「道の駅」だけではなく、他の店舗にいるお客

図表1 「みなかみハピネス・光Wi-Fiタウン観光活性化計画」のイメージ



さまにも配信したい」。当たり前のように、集客・誘客のさらなるニーズが派生しました。各店舗をグループ化する「グループポータル」を利用することで、グループ全体への情報配信が可能となりますが、ここで2つの課題が発生しました。

課題1: ID／パスワードの管理上の問題

グループ全体へ情報配信するための管理者用の「ID／パスワード」を約70の店舗などが共有することは、他店情報の上書きや削除にもつながりかねない。

課題2: 「お知らせ枠」が絶対的に不足

グループ内のお知らせの登録・表示は「10件」と制限されており、約70の店舗などが情報を競って登録した場合、11件目の店舗は登録ができない。

地元ベンダーとの連携による みなかみ町オリジナルツールの 構築

群馬支店と過去のアライアンス案件でリレーション実績のあった地元のソフト開発ベンダー株式会社ろけっと開発様の協力により、この課題は解決されました。ろけっと開発社は、NTT東日本との連携バリューや、みなかみ町事業者への技術力アピールをメリットと考え、ローコストで『お知らせ配信・ろけっとツール』を開発、提供しました。

このツールは、「ID／パスワードをユニーク生成」「お知らせの予約付カレンダー機能」を有しており、2つの課題を解決し、グループ全体へのスムーズな情報配信を可能にしました(図表2)。

図表2 「グループポータル」の課題と解決イメージ



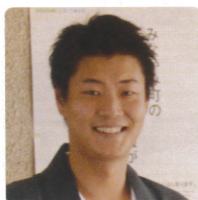
さらなるニーズに迅速対応

●「光iフレーム2」の貸与(次頁写真2)

観光活性化に意欲の高い参加店のニーズはさらに高まります。「スマートフォンを持っていないお客さまへもPRしたい」

「効果的なお知らせはどのように出せばいいのか。他店はどんな『お知らせ』を出しているのか」。そのニーズは、「光iフレーム2」を貸与することで解決しました。「フレッツ・ポータル」画面を表示させた「光iフレーム2」を、参加店の店頭やレジ側に配備しました(貸与期間は2013年1月末

〈関係者の声〉



みなかみ町観光課
西山 智哉 様

NTT東日本とのWi-Fi展開は、「みなかみハビネス計画」の大きな盛り上げ効果となっています。「光ステーション」の情報配信は、個々店のみではなく、「他店にいるお客さまへも情報配信し誘客をねらう」という仕組みの発想もNTT東日本の担当者との度重なるディスカッションにより得られたものです。今後も、屋外アクセスポイントの設置や観光動画コンテンツなどの提供を進めていくうえでも良い連携を図っていききたいと思います。



「お知らせ配信・ろけっとツール」開発ベンダー
株式会社ろけっと開発
宇田川 利明 社長

本件のお話をいただいたときは、まず「フレッツ・ポータル」を補完するという技術的な難しさと、1カ月足らずという短納期に驚きました。ローコストという厳しい前提ではありましたが、わが社としてもツールを利用する過程で、みなかみ町の事業者へ技術力をアピールする良い機会を得られた好条件のアライアンスだと考えています。また、地元ベンダーとして、みなかみ町の観光活性化に貢献できたことを何よりうれしく思います。

まで)。期間終了後に継続利用を希望する場合は、正式に新規申込みをいただくアライアンス連携です。

●外国人観光客受け入れ促進

年間を通じ、約7,000人の外国人観光客が訪れるみなかみ町は、インバウンド対策にも積極的です。2012年12月に、日本短期滞在者向け2週間無料Wi-Fiインターネットが利用可能な「ID/PASSカード」の提供も開始しました。「ID/PASSカード」は、東日本エリアで最も多い61の店舗・施設が配布しています。

今後の展開

現在、約70台の「光ステーション」は、屋

内に限定したサービス提供です。来年度には、屋外アクセスポイントの設置を視野に入れ、観光客が道の駅の駐車場や、みなかみ町の温泉街・観光スポットを散策しながら、または足湯につかってなど、屋外のさまざまなシーンでWi-Fi利用ができる環境構築を検討しています。

本連携のきっかけは 「光Gunma Happyタウン」

2011年7月、群馬県（デスティネーションキャンペーン）と群馬支店の「光Gunma Happyタウン」は観光PRのコラボレーションを行っていました。

取材で伺ったみなかみ町。関越自動車

光Gunma Happyタウン

道水上インターチェンジを降りると観光客が必ず立ち寄る「道の駅」で、「ここに来る観光客に『みなかみ町』の素晴らしさを、もっともっと知ってもらいたいんだ!」と熱意を込めて語る観光課のスタッフがいました。

1年後、群馬支店の担当者と観光課スタッフは再会し、「NTT東日本のWi-Fiサービスが、みなかみ町の観光活性化のために役立たないか」、幾度とないディスカッションが行われました。群馬支店の担当者は、みなかみ町との「BtoXtoY型アライアンス」の可能性を求め、観光課スタッフからは、町を盛り上げるさまざまなアイデアが溢（あふ）れでて、その結果、「光Wi-Fiタウン計画」が生まれました。

このように、群馬支店では、「光Gunma Happyタウン」から派生したリレーションを友好的に育（はぐく）み新たなアライアンス連携に繋（つな）がる取り組みも推進しています。

●問い合わせ●

NTT東日本-群馬 営業部
販売部門 販売企画担当 アライアンス推進
龍見、三田、小淵
(027)327-6151
E-mail:hanki-sousen2@ml.gunma.east.ntt.co.jp



写真1 スマートフォンでの
エンドユーザー利用イメージ



写真2 「光iフレーム2」での
配信情報閲覧イメージ